

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1073100545		
法人名	社会福祉法人 ポプラ会		
事業所名	グループホーム りんどう		
所在地	群馬県邑楽郡板倉町細谷202		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人ひとりの想いを大切に、入居者の好きな事や出来る事、やりたい事などを行って頂きながらその人に合わせたケアを実践し、安心して笑顔のある生活を送って頂けるよう支援しています。季節を感じて頂けるようイベントの企画や毎月入居者の方と一緒に工作作りやおやつ作りを行っています。また、畑での野菜の収穫や季節の花植えを行い、天気の良い日は同一敷地内にある交流広場へ行ったり花を見に散歩へ行ったりしています。入居者の方の誕生日には手作りケーキにてお祝いしたり、健康の為に毎日麦茶を沸かしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念について、職員から理念に基づいて行っていることをだしてもらうことで、理念の実践にむけて共通理解を図っている。そうしたなか、職員の対応が利用者の笑顔ややすらぎに関わることと捉え、利用者寄り添う時間を大切にしている。裁縫を一緒にしたり、職員を追ってしまう方にはそばで記録をしたり、またそうしたなかで活躍する場面づくりに努め、夏祭りの看板を書いてもらったり、おやつづくり・花植えが行われている。重度の方もいるなかで、同じように夏祭りにはお揃いのはっぴを着たり、同じ空間を共にするように心がけている。また、職員に対しては、年間の職員会議の議題を決めて話し合い、その他事故検討会議の議事録も職員が交代で記録することで、理解と主体性をもって関わられるようにしている。あわせて、利用者担当・工作担当などもあり、意見交換が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔とやすらぎのある毎日を共に過ごす、地域とのつながりを大切にその人らしい暮らしを支えるを理念とし、より良いケアを目指し共有実践しています。	9月の職員会議では、理念を意識して行っていること・心がけていることを職員に意見をだしてもらうことで、理念に基づいた実践の共通認識を図っている。また、日頃のケアの振り返りの機会となった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、外出行事は行っていませんが、面会は感染状況をみながら実施しています。	現在は、和太鼓などの演奏の訪問などは行われておらず、併設の認知症カフェも参加を見合わせており、利用者が地域の方と交流する機会は途絶えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設しているカフェで認知症カフェを定期的に行い、認知症についての理解を深める事業を行っています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より開催し、ご家族、市町村、地域代表の方々に参加して頂き、入居者の状況や活動内容を報告し意見を頂いています。	運営推進会議は書面開催から開催となり、報告と意見交換が行われ、できるだけ意見を言って頂きたいと考え意見を促すなかで、行事や生活についての意見や質問がだされ、意見をもとに下肢筋力の運動を取り入れるなど取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営委員会会議を通して市町村や地域の方々との連携を取りつつ、施設の現状や状況を理解して頂けるよう情報を発信したり協力関係を築けるよう努めている。	運営推進会議の他、地域ケア会議が行われ、市や社会福祉協議会などと情報交換や事例検討が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない為にはどのようにケアを行っていくか、日々、職員会議や情報を共有しお互いに注意喚起を行い、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。	利用者を観察するなかで職員を追って立ち上がってしまう危険があると要因をつかみ職員がそばにいたり、身体拘束適正化委員会では、センターマットの使用について話し合ったりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を行わない為にはどのようにケアを行っていくか、日々、職員会議や情報を共有しお互いに注意喚起を行い虐待防止に向けて取り組んでいる。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な入居者はいませんが、必要時には支援できるように在宅支援センターと連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の役割や現状のサービス状況の説明を行っている。また、説明をする際は、説得するのではなく納得して頂けるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やサービスに関する相談、要望、苦情は管理者が窓口となり運営に反映させています。また、電話や来所時に状態を報告し、要望や意見を聞いています。	玄関に意見箱を設置している。コロナ禍で面会は玄関で短時間としており、電話やお便りと写真などで状況を説明し、こちらから投げかけて意見を聞くようにしている。面会についての要望が多いが、法人として検討して家族へ方針を説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の他、職員の意見や提案を検討し運営に反映させています。	毎月の職員会議では、あらかじめ議題を2つ決めて話し合いを行っている。また、職員会議と事故検討会議の議事録は、パート職員も含めて交替で作成することで、会議内容の理解につなげている。日頃より職員から勤務にあわせた業務の変更などの提案が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験年数に応じた到達目標を設定し、到達時には給与に反映させるシステムを作っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により、同一敷地内施設による全体研修が困難な為、書面での研修や職員会議の際に資料等で周知しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力医療機関や同法人内施設、また、町内にある他の施設との会議を通して意見交換や情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、利用者、ご家族との話し合いの機会を設け安心して生活して頂けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する際に、生活歴や趣味などを聞き取り、その人に合った生活スタイルを構築できるよう、本人、ご家族の意見や要望を取り入れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族が不安に思っている事や困っている事、求めているサービスを見極めながら必要な支援を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯などの家事やおやつ作り、レクリエーションを通して、本人の出来る事や得意な事、日々の日課などを職員と一緒にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に本人を支えていけるよう要望等を聞きながら電話や面会時に報告、連絡、相談を行っています。また、毎月、入居者の様子を写真で郵送しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交流のあった人達との関係を継続できる環境づくりを継続出来るような支援に努めています。	コロナ禍で面会ができず、高齢化や地域性もあり馴染みの人との交流は途絶えている。入居時に把握した生活歴を考慮して土いじりなどができるよう野菜の収穫や花植えなどを行ったりしながら、自宅でも行った農作業について聞いたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で役割分担や共同作業が出来ており、お互いに支え合える関係が出来るよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同一敷地内の施設に移った利用者の面会に行き、様子などご家族と話をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を聞きながらご家族と共に話し合い、好きな事や出来る事を行って頂いています。利用者本位のケアになるよう努めています。	入居時に、利用者状況書に好きなこと・得意なことなども記載して、裁縫・習字・歌など活躍の場づくりが行われている。意思表示が難しい方でも、お祭りなどの行事や花植えなどの生活の場面で共に過ごすなかで、声を出す・顔をむけるなどのしぐさや表情で思いを汲み取る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴に関する情報を本人やご家族から教えて頂き、本人の大切にしてきた生活や想いを継続できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態観察を行いながらその人に合ったペースで生活できるよう支援しています。また、状態変化時には管理者、ケアマネ、ご家族への報告、相談を行いながらより良い支援を目指しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員1人が2名ずつ利用者を担当しています。常に状態の申し送りを行っており、カンファレンス時に話し合い、その人に合ったケアプランを行っています。	介護計画にそった記録をとるために、介護記録に介護計画のニーズの一覧表を置いて、意識した記録に努めている。また、記録には利用者の発言や表情なども記載するように努めている。	現在の介護計画にそった記録となるための取り組みを継続しつつ、モニタリングに活かせるよう介護計画にそった記録がわかるような記録方法の検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に状態や様子を記録しています。業務日誌には職員間で情報を共有できるよう記入しています。また、誰が見ても理解できるような記録を残せるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一建物内にデイサービス、同一敷地内に特養とケアハウスがあり連絡や相談ができるようになっています。また、協力医療機関とは24時間連絡が取れるようになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方に災害時に協力して頂けるよう運営推進会議の際に、協力をお願いしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族に確認し希望のかかりつけ医受診の確認をしています。また、協力医療機関もあるので話し合いながら洗濯して頂いています。状態変化時は早めに受診ができるよう努めています。	入居時に、これまでのかかりつけ医を継続するか、協力医療機関で受診するか、選択してもらっている。これまでのかかりつけ医の往診が行われたり、協力医療機関の受診を、事業所で対応したりしている。受診の際には、利用者の状況報告書を持参している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個人医療機関の往診や協力医療機関の看護師と連携し健康管理や状態報告を行っています。また、同一敷地内の施設看護師との協力体制を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍により訪問が難しい為、看護師より状態を確認しています。退院時は細かく情報交換を行い、安心した生活を送れるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人やご家族と話し合い希望を確認しています。また、状態変化時には協力医療機関やご家族と話し合いを行い、方針を決めています。	入居時に延命処置の希望を確認し、その後も変更が可能であることを伝えている。医療的処置が必要であったり、口から食事が摂取できなくなったりした場合には、協力医療機関での入院となっている。それ以外の場合には、最期まで支援する方針で家族との話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍の為、勉強会や研修等への参加は行っていないが、急変時や事故発生時に備え、マニュアルを整備しています。また、協力医療機関とも24時間連絡が取れる体制も整っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域協力関係者により、年2回の消防訓練を実施しています。また、併設の施設との協力体制も整っています。	年2回昼夜を想定して、避難訓練を行っている。地域の住民と協力関係を構築することは難しい状況だが、近隣の店舗などに協力の呼びかけを行っている。地域の特性もふまえて県にも相談し、BCP作成にむけて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し性格等を考慮しながら相手の立場に立った対応ができるように心がけています。	業務優先ではなく寄り添う姿勢で支援するように心がけている。職員の対応で利用者の気持ちが変わることに配慮して、声かけや対応に気をつけている。職歴や性格などを確かめ、利用者間の人間関係にも考慮して、気持ちを害さないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重しその人に合わせた対応ができるよう支援しています。職員が選択するのではなく本人が選択できるような支援を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる生活ペースはあるが、その人の希望にそった支援を行っています。本人の生活ペースを大切にし、一人ひとりの想いにそった支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2～3か月に1度美容室が来所しています。その際は本人に要望を聞き、好みの身だしなみができるようにしています。また、自室の洗面台にて鏡を見ながら整容ができるようになっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同一敷地内にある委託業者から食事を提供して頂いています。月に数回、季節に合わせたおやつ作りを行っています。畑で野菜の収穫を行いおやつ作りに取り入れています。また、食事の準備や後片付け等も行って頂いています。	食事は、法人で委託しているので調理したものが届いている。月に3～4回は手作りのおやつ作りを行っている。包丁で切ったり、すりこぎをまわしたり、重度の方も一緒に同じ空間を共に過ごすことで、たのしめるように取り組んでいる。食欲・体重の増減にあわせて、法人の栄養士と相談し支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録しながら協力医療機関と連携し栄養や水分の確保を支援しています。本人や家族にし好品を聞いたり代替品用意して対応しています。また、同一敷地内の施設栄養士と相談しながら連携をとっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、できる方には本人に口腔ケアを行って頂いています。介助の方は職員が行い、義歯を使用している方は夕食後に毎日洗浄剤を使用し清潔を保持しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はできるだけトイレで行って頂けるよう、日中夜間共に定時のトイレ誘導を行っています。また、本人の訴え時には職員が付き添い見守りを行っています。	排泄は、利用者の状況によって職員3人で対応したり、トイレの手すりに手を添えてあげることで掴まることができるようなど、混乱しないように誘導することでトイレでの排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、午前中と午後に体操を行い身体を動かしたり、水分を多めに摂取して頂き、トイレ時には必要に応じて腹部マッサージを実施しています。また、根菜類は積極的に摂取して頂くようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	5月は菖蒲湯、12月はゆず湯を行っています。本人の希望や体調に合わせて個別に入浴できるよう支援しています。	入浴は週2~3回として、利用者の状態によっては職員3人で対応したり、清拭で対応したりして、記録をしている。敷地内のしょうぶを利用者にとってしょうぶ湯にしたり、入浴につながるようにその人の状況にあわせて予約の時間と声かけするなど工夫したりして、気持ちよく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりについて個々の記録や申し送りで睡眠パターンを把握し、眠れない場合は職員と過ごし安心して休んで頂けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬、処方箋共に個人別に管理しています。また、処方箋は1つのファイルにし職員間で共有できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や好きな事、できる事を活かし楽しみのある生活が送れるよう支援しています。工作やレクリエーション、音楽療法を通して職員間での情報交換を行いながら支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、現時点では定期通院以外の外出は実施していません。	コロナ禍で、外出は行っておらず、敷地内にある交流広場までの散歩にとどまっている。今後は、ドライブは再開する予定である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と話し合い、所持する事で安心感を得られるため、自己管理をされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を利用し、ご家族や知人からの電話を本人につなぎ、話ができる環境を整えています。本人からの訴え時にも電話ができるよう支援しています。また、ご家族から手紙が届く方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間は十分なスペースが確保され季節の工作や装飾品があります。中庭に面している所はガラスである為、明るく季節の花が観賞できるようになっています。台所は対面式で利用者を観察したり会話しながら作業ができるようになっています。	共用空間には、職員が季節の花を持ってきて飾ったり、月1回その季節の代表するような工作を作って、季節を感じられるようにしている。落ち着て過ごせるように、職員の対応も環境の要因と考えている。また、利用者同士の関係性にも配慮してレクリエーションや掲示にも気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室3部屋ごとに各1つ談話室があり、団欒スペースとなっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、ご家族と話し合い、馴染みのある物や大切な物など使い慣れた物を持ち込んで頂いています。本人が安心して居心地よく過ごせるよう支援しています。	居室入り口には、利用者の写真の他、利用者の生まれ月の花やそろばんや登山などその人に関わるものを飾り、その人の居室の表札となっている。居室には、本や孫の写真などが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の環境整備を行い、個々の身体機能を活かした個別ケアを行っています。職員と一緒にできる事や好きな事を活かしながら安全な生活が送れるよう支援しています。		